

（仮称）株式会社 T & H エコみらい 廃棄物焼却処理事業に係る 環境影響評価方法書の概要

令和 5 年 9 月

株式会社 T & H エコみらい

1. 対象事業の名称、目的及び内容

事業者の名称、対象事業の名称

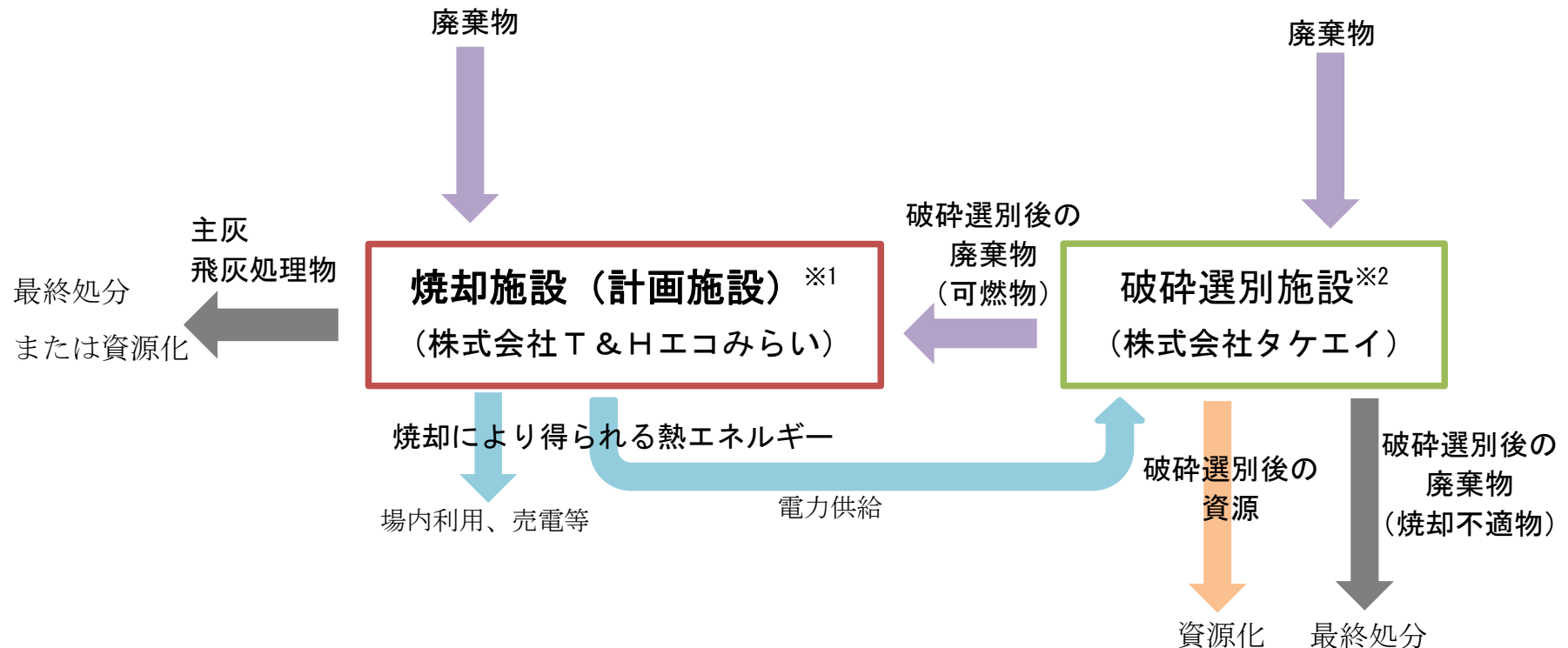
事業者の名称

：株式会社 T & H エコみらい

対象事業の名称

：（仮称）株式会社 T & H エコみらい廃棄物焼却処理事業

対象事業の目的



事業の目的

- 株式会社タケエイが別途、整備する破碎選別施設と日立造船株式会社の持つ技術により整備する焼却施設により、循環型社会、脱炭素社会等への貢献、災害廃棄物の速やかな処理をグループ内で実現することを目的とする

対象事業の内容

- 対象事業の種類の細分

廃棄物焼却処理施設の設置

- 対象事業の規模

処理能力：330 t/日 （165 t/日 × 2系列）

- 処理する廃棄物の種類、焼却方法

受入廃棄物：主に建設廃棄物を選別後の可燃性残渣

廃棄物の種類：廃プラスチック類(43%)、紙くず(16%)、木くず(15%)、繊維くず(11%)、他

焼却方法：廃棄物ピットで攪拌混合のうえ混合物を焼却処理
感染性廃棄物は専用ラインにより焼却炉へ投入

対象事業の内容（対象事業実施区域）



- ・ 対象事業実施区域の位置

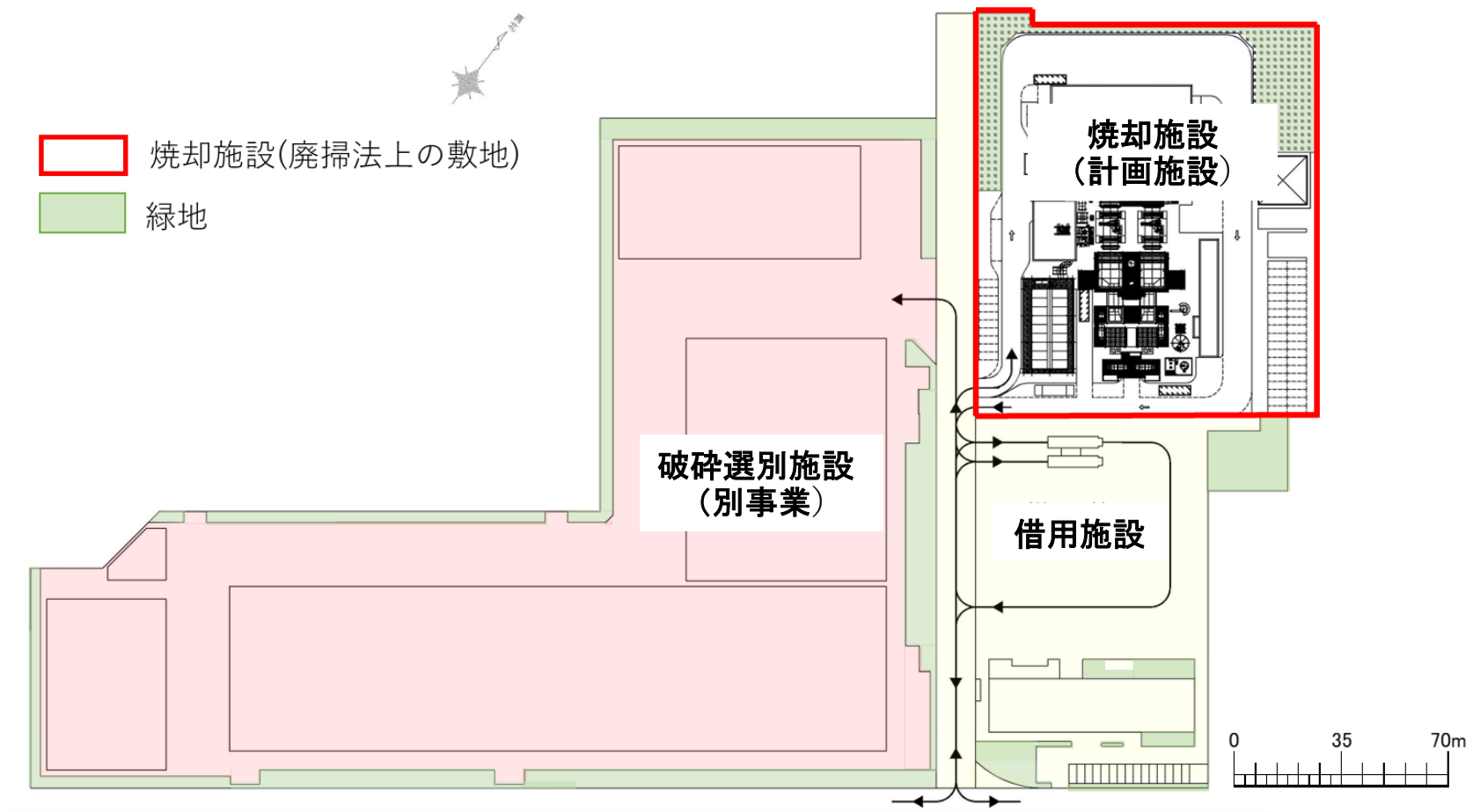
千葉県市原市八幡海岸通 1 番 1 の一部



対象事業の内容（対象事業実施区域）

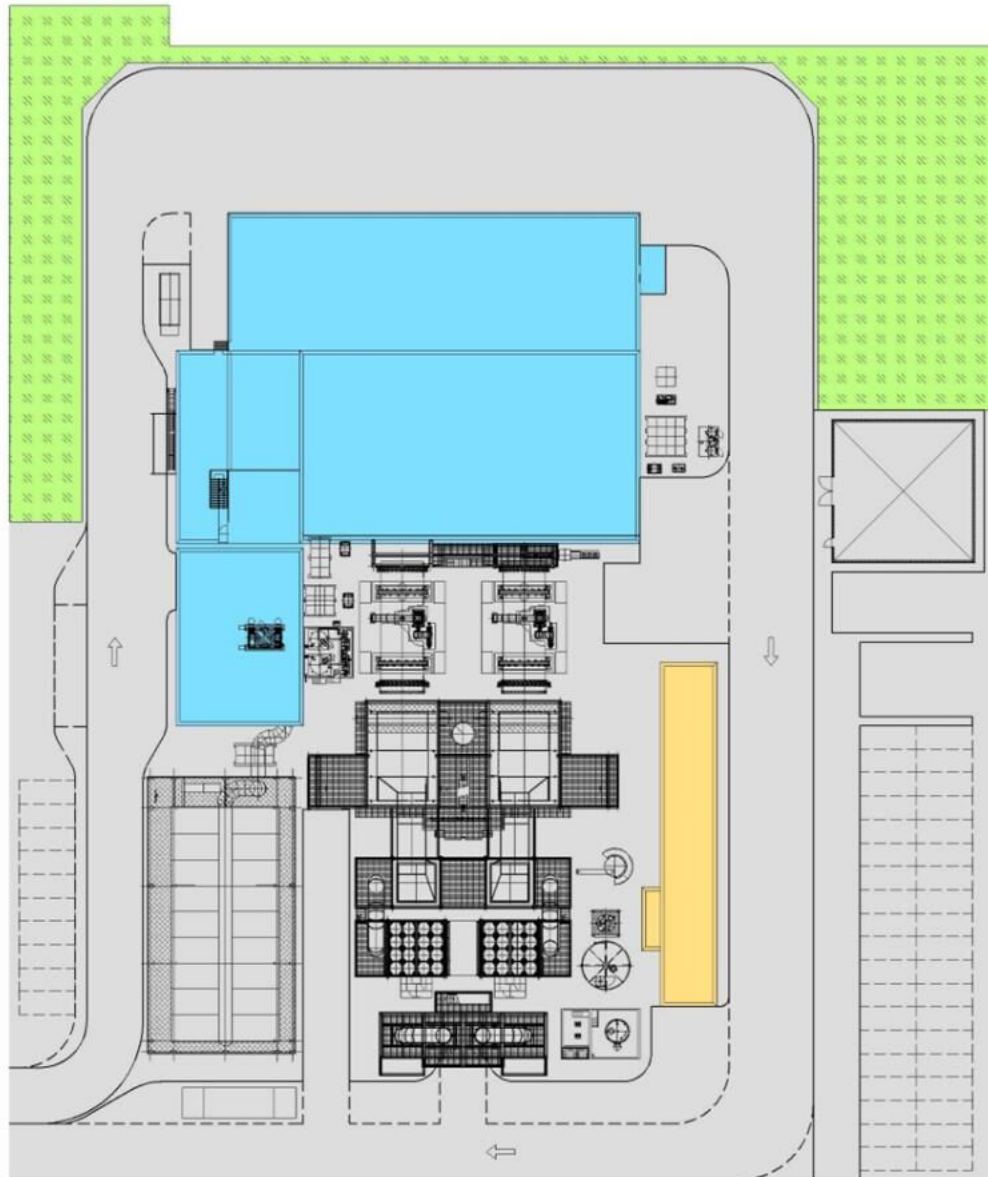


対象事業の内容（対象事業実施区域）

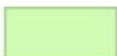


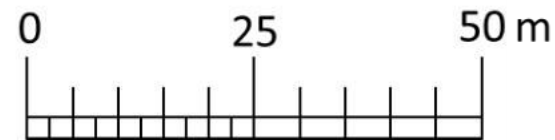
別事業(タケエイ破碎選別施設)・借用施設を含む全体配置計画(案)

対象事業の内容（土地利用計画図）



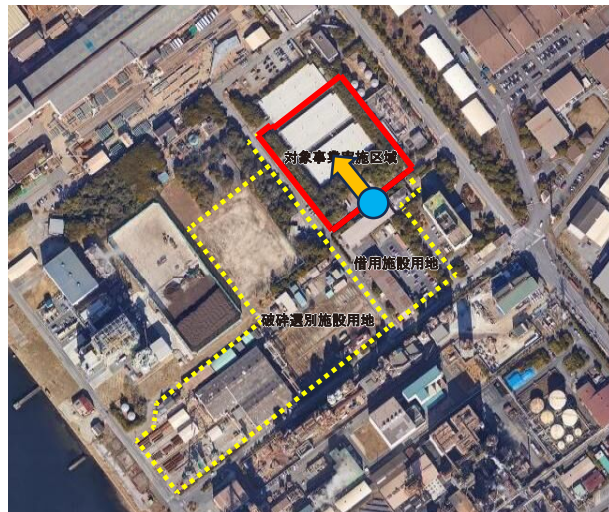
全体面積	約12,900m ²
工場棟	約1,940m ²
灰ピット棟	約230m ²
屋外機器・舗装等	約9,430m ²
緑地	約1,300m ²

	工場棟
	灰ピット棟
	屋外機器、舗装等
	緑地



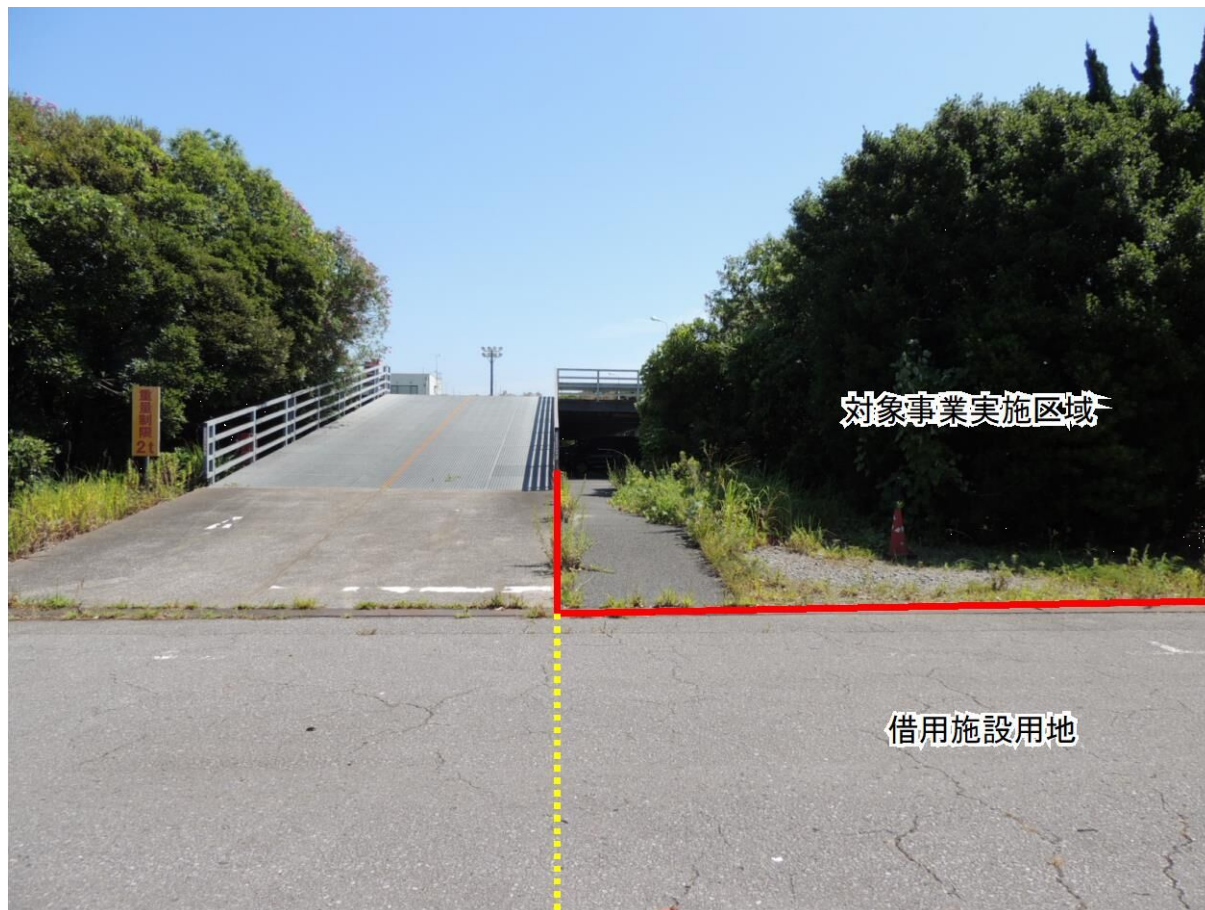
対象事業の内容（対象事業実施区域の現状）

対象事業実施区域内（東側）



対象事業の内容（対象事業実施区域の現状）

対象事業実施区域 西側



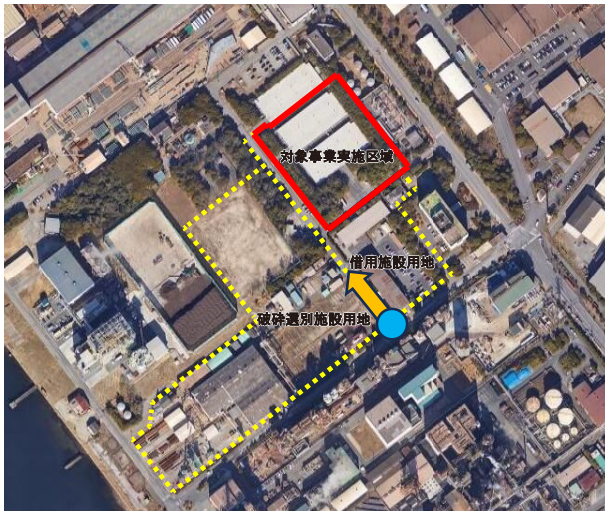
対象事業の内容（対象事業実施区域の現状）

対象事業実施区域 内（西側）



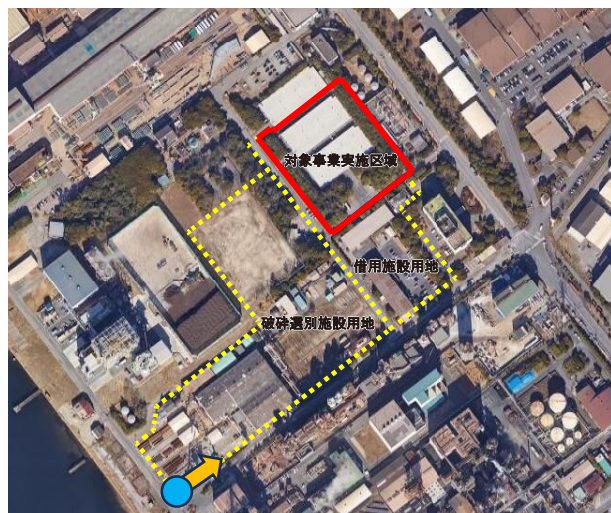
対象事業の内容（対象事業実施区域の現状）

破砕選別施設用地 東側
(別事業)

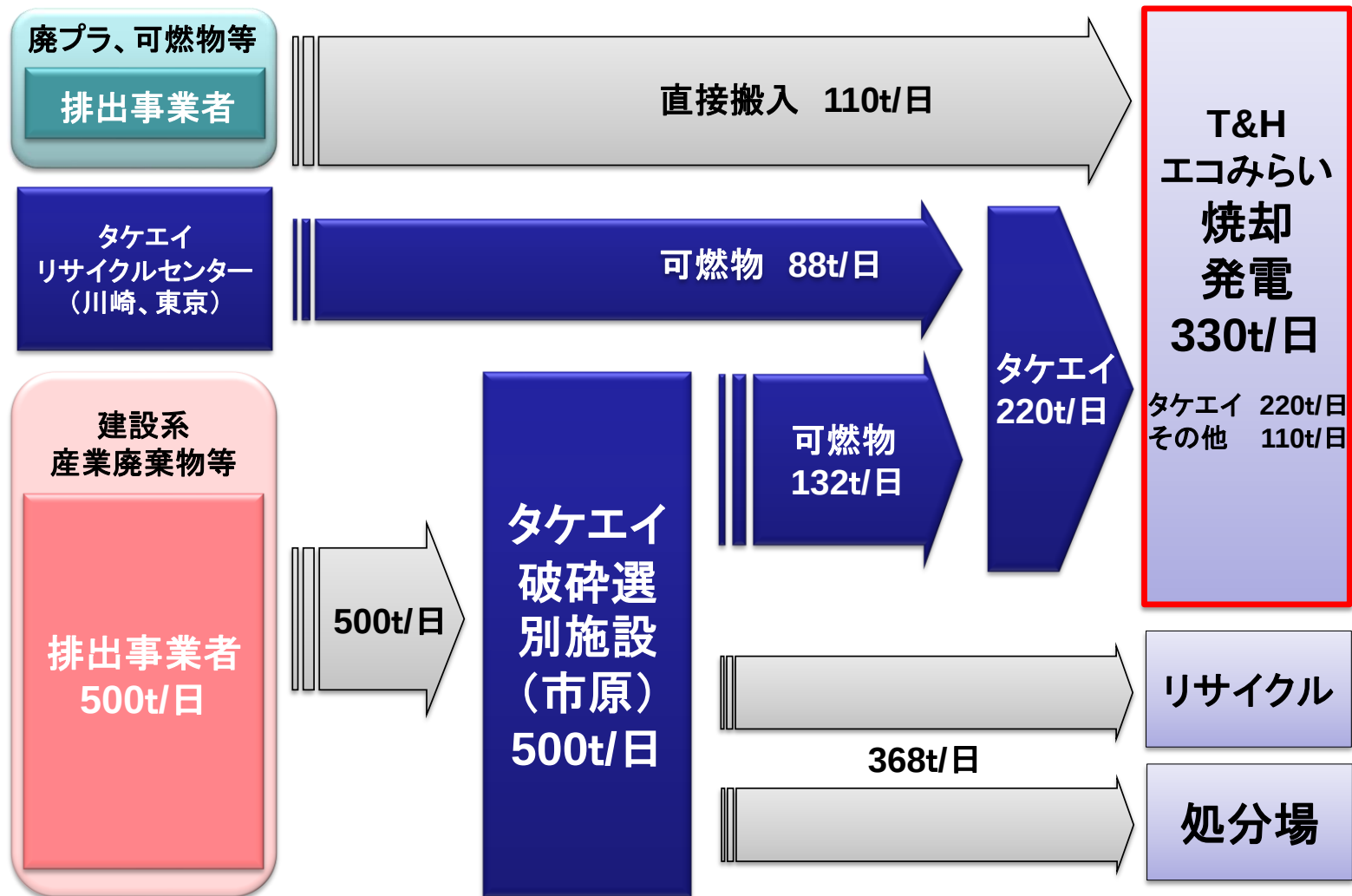


対象事業の内容（対象事業実施区域の現状）

破碎選別施設用地 南側
(別事業)

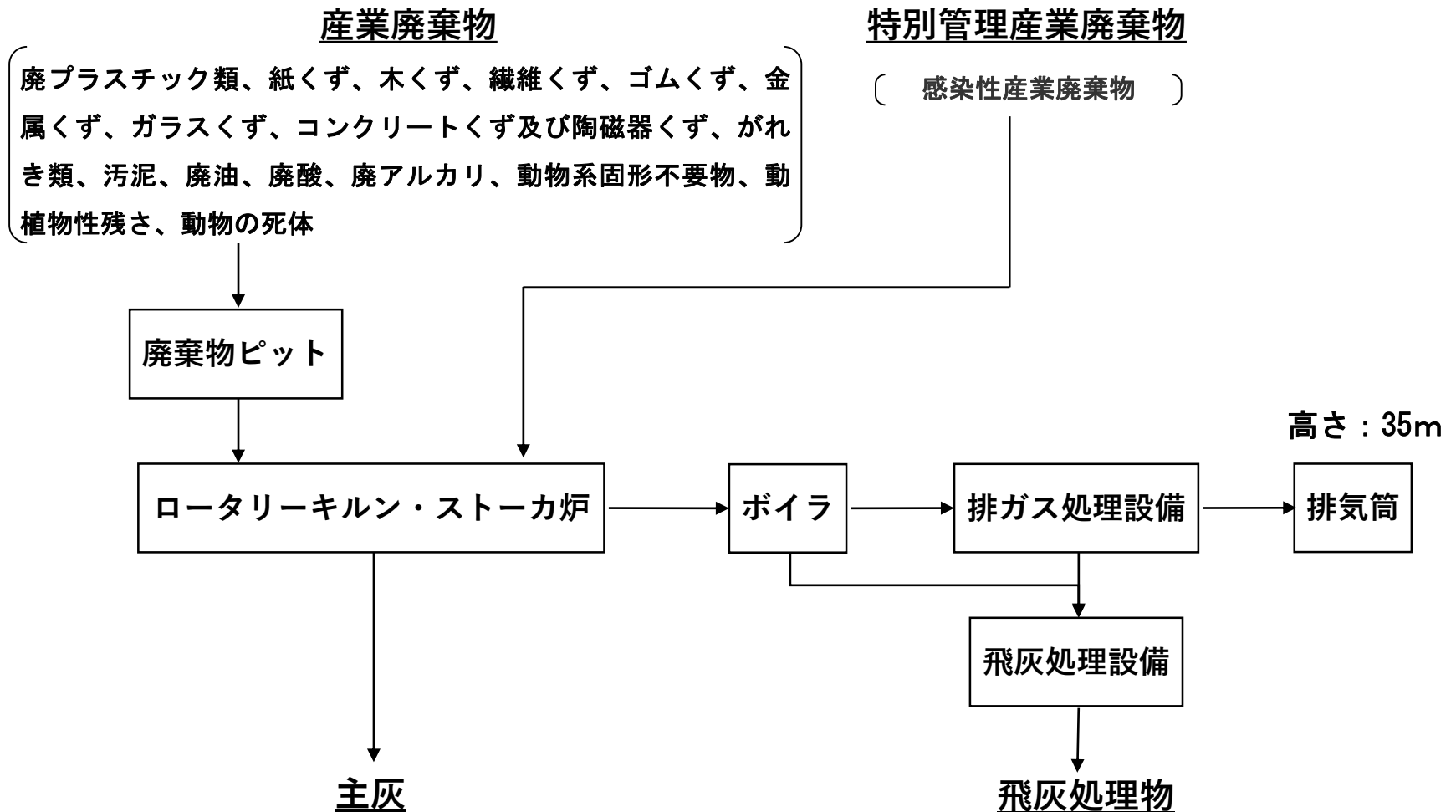


対象事業の内容（廃棄物処理計画）



計画施設の施設規模

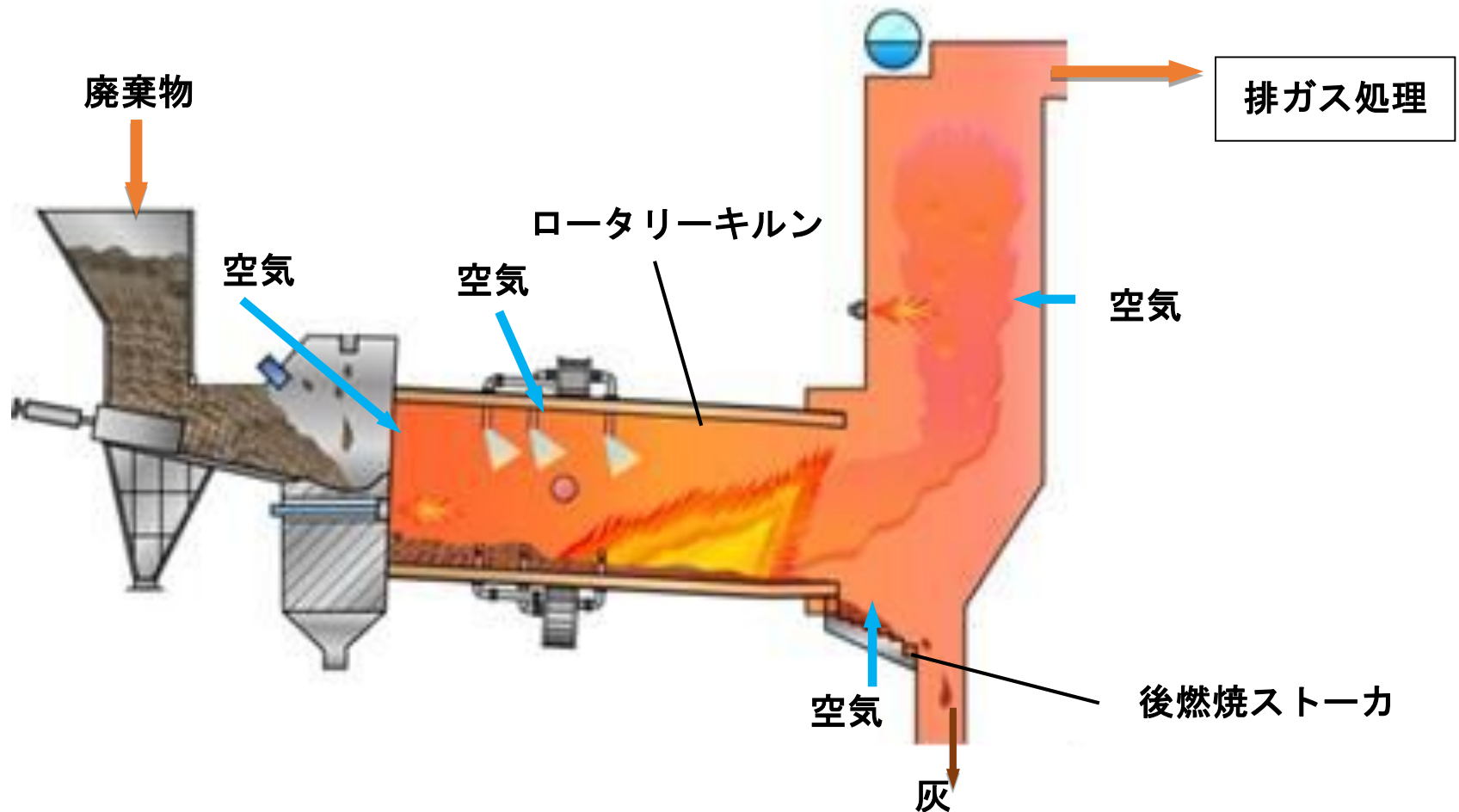
対象事業の内容（廃棄物の処理方式）



廃棄物処理の概略フロー

注）方法書2-15ページの図2-3-9 廃棄物処理フロー図も併せてご参照ください。

対象事業の内容（廃棄物の処理方式）



ロータリーキルン・ストーカ炉方式

注）方法書2-15ページの図2-3-9 廃棄物処理フロー図も併せてご参照ください。

対象事業の内容（公害防止に係る基準値）

大気質

項 目		自主基準値	関係法令による 基準値	関係法令及び条例等
ばいじん	濃度	0.02 g/m ³ _N	0.04 g/m ³ _N	大気汚染防止法
硫黄酸化物	濃度	55 ppm	—	
	総量	7.26 m ³ _N /h※	K値:1.75 11.29 m ³ _N /h※ (87ppm)	大気汚染防止法
窒素酸化物	濃度	40 ppm	250 ppm	大気汚染防止法
塩化水素		200 mg/m ³ _N	700 mg/m ³ _N	大気汚染防止法
ダイオキシン類		0.1 ng-TEQ/m ³ _N	0.1 ng-TEQ/m ³ _N	ダイオキシン類対策 特別措置法
水銀		30 μg/m ³ _N	30 μg/m ³ _N	大気汚染防止法

※：2炉合計の値

対象事業の内容（公害防止に係る基準値）

騒音

項 目	関係法令による基準値	関係法令及び条例等
朝（6時～8時）	65 dB 以下	騒音規制法
昼間（8時～19時）	70 dB 以下	
夕（19時～22時）	65 dB 以下	
夜間（22時～翌6時）	60 dB 以下	

振動

項 目	自主基準値	関係法令及び条例等
昼間（8時～19時）	65 dB 以下	—
夜間（19時～翌8時）	60 dB 以下	

悪臭

項 目	関係法令による基準値	関係法令及び条例等
特定悪臭物質（22物質）	規制基準	悪臭防止法
臭気指数（敷地境界）	13	
臭気指数（気体排出口）	33	

対象事業の内容（公害防止計画）

大気汚染防止計画

物 質	主な排出ガス処理対策
ばいじん	バグフィルタにて、高効率に捕集
硫黄酸化物 塩化水素	酸性ガスについては、消石灰を吹き込んで中和反応処理を行い、反応後の反応生成物をバグフィルタにてばいじんとともに捕集・除去（乾式消石灰吹込み方式）
窒素酸化物	燃焼空気量、廃棄物の供給量の適切な制御により局所的な高温状態を避け、窒素酸化物の生成を抑制 触媒反応塔を設け、アンモニアによる触媒脱硝処理を行う
ダイオキシ ン類	生成を抑制するため、排ガス温度を800℃以上に保ち、滞留時間2秒以上で完全燃焼させる 減温塔などにより短時間に冷却、バグフィルタで粒子状物質を除去、さらに触媒反応塔によりダイオキシンを分解除去
水銀	減温塔など200℃未満に減温した後、活性炭を吹込みバグフィルタにて、ばいじんとともに捕集・除去

対象事業の内容（公害防止計画）

水質汚濁防止計画

項 目	排水処理対策
プラント排水	・ 再利用（炉内噴霧・処理）し、公共用水域へ放流しない
生活排水	・ 合併処理浄化槽により処理後、海域へ放流

騒音・振動防止計画

項 目	騒音振動防止対策
騒音	・ 特定機器は、低騒音型機器の採用に努める ・ プラットホームの出入口にシャッターを設置、廃棄物搬入時の騒音の漏えいを防ぐため可能な限り閉鎖 ・ 騒音の大きな機器は、吸音材等を設置
振動	・ 振動の著しい設備機器は、強固な独立基礎や防振架台に固定 ・ 必要に応じ基礎部への防振ゴムを設置

対象事業の内容（公害防止計画）

悪臭防止計画

項 目	悪臭防止対策
臭気漏えいの防止	・ 廃棄物の保管場所を建屋内に配置、荷下ろし等の作業を屋内で行い、臭気の漏えいを防止 ・ 廃棄物運搬車両が出入するプラットフォームは、搬出入時以外はシャッターで外部と遮断、外気の通り抜けによる臭気の漏えいを防止 ・ 廃棄物ピットは常に負圧を保ち、臭気の漏えいを防止
臭気の分解・脱臭等	・ 廃棄物ピットの空気を焼却炉の燃焼用空気として炉内に吹き込み、燃焼による臭気成分の分解を行う

対象事業の内容（公害防止計画）

土壤汚染防止計画

項 目	土壤汚染防止対策
廃棄物受入時の対策	・ 廃棄物の受入場所は、建屋内に設置するコンクリート構造の廃棄物ピットとし、廃棄物汚水が土壤中へ浸透・流出しない構造とする。
灰搬出時の対策	・ 主灰は、冷却を行った後、灰ピットに貯留する。 ・ 飛灰は飛灰処理設備において、飛灰中に含まれる重金属等が溶出しないように安定化处理し、処理灰ピットに貯留する。 ・ 搬出の際は、灰が飛散して土壤汚染の原因とならないようにシートカバーの使用や湿潤化等の措置を講じる。

対象事業の内容（環境保全計画）

項 目	内 容
緑化計画	・ 市原市の「緑化協定」等を踏まえ、10%以上の緑地を確保
景観計画	・ 市原市景観計画の景観形成基準を踏まえ、景観形成に努める
余熱利用計画	・ 高効率なエネルギー回収型廃棄物処理施設とし、場内で使用する電力と熱量を確保、余剰電力を売電 ・ 廃棄物の焼却で発生するエネルギーを高効率で回収するために、蒸気条件の高温高压化によるタービン内部効率の向上 ・ 低温エコノマイザを組み合わせ、最も効率の良いエネルギー回収システムとする
温室効果ガス削減計画	・ 余熱利用のほか、施設内の設備機器、管理棟の照明や空調設備を省エネルギー型とする

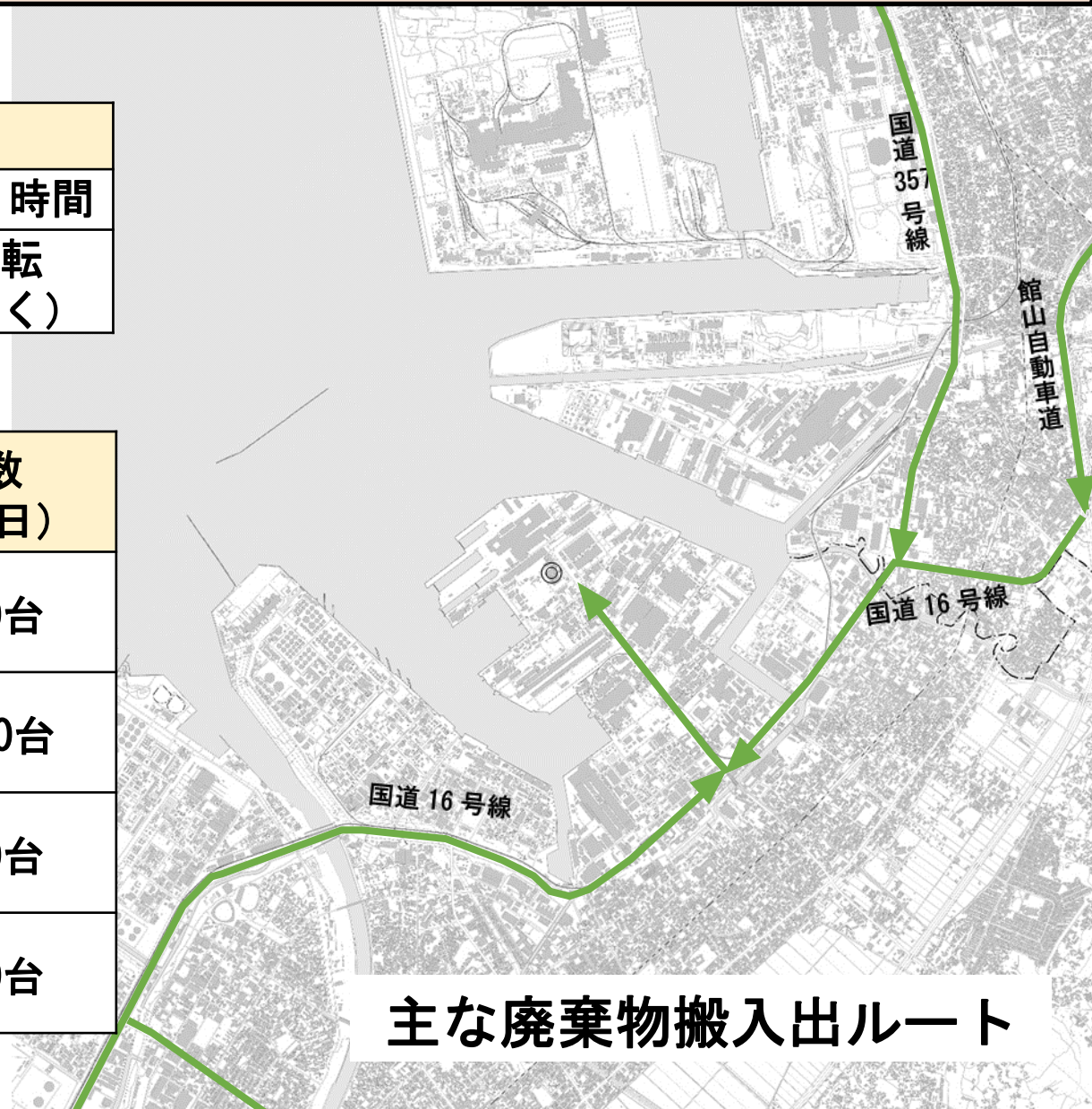
廃棄物受入計画等

廃棄物受入計画

項目	内容
受入時間	月曜～日曜日 24時間
施設稼働時間	24時間連続運転 (全炉休止期間除く)

廃棄物搬入搬出車両台数

車両区分		台数 (台/日)
搬入車両	計画施設への搬入	約40台
	破碎選別施設への搬入	約190台
搬出車両	計画施設からの搬出	約20台
	破碎選別施設からの搬出	約80台



主な廃棄物搬入出ルート

工事計画

工事工程表

項目		令和 4 年度 (2022 年度)	令和 5 年度 (2023 年度)	令和 6 年度 (2024 年度)	令和 7 年度 (2025 年度)	令和 8 年度 (2026 年度)	令和 9 年度 (2027 年度)
焼却施設 (計画施設)	設 計						
	土木建築工事						
	機械設備工事						
	試運転						
	営業開始						○
破砕選別 施設 (別事業)	設 計						
	建設工事						
	営業開始					○	

工事用車両の走行ルートは、国道 1 6 号線を利用

工事中の環境保全対策

大気汚染対策

- 排出ガス規制適合車を使用
- 不要なアイドリングや急発進・急加速をしないなど、エコドライブを実施
- 工事用車両が集中しないような工程管理、配車計画

粉じん対策

- 粉じんの飛散防止のため、仮囲を設置
- 適宜散水を実施
- 掘削土等を仮置きする場合、シートなどで養生
- 車輪・車体等に付着した土砂を除去した後に退出

工事中の環境保全対策

騒音・振動対策

- ・ 建設機械は、低騒音や低振動のものを使用
- ・ 不要なアイドリングや空ぶかしをしない
- ・ 発生騒音、振動が少なくなる施工方法を採用

濁水対策

- ・ 工事作業範囲の雨水を仮設水槽等に集水し、濁水処理

土壌汚染対策

- ・ 掘削土が汚染されている場合、関係法令に基づき適切に対応
- ・ 場外に搬出する場合、適切な運搬容器やシートカバー等の使用により、土壌の飛散等を防止

2. 環境影響評価の項目

廃棄物焼却施設の新設に係る活動要素の選定

活動要素の区分 環境要素の区分	工事の実施								土地又は工作物の存在及び供用									
	樹林の伐採	切土又は盛り土	湖沼又は河川の改変	海岸又は海底の改変	工作物の撤去又は廃棄	資材又は機械の運搬	仮設工事	基礎工事	施設の設置工事	施設の存在等	ばい煙又は粉じんの発生	排出ガス(自動車等)	排水	騒音若しくは超低周波音又は振動の発生	地下水の採取	悪臭の発生	廃棄物の発生	工作物の撤去又は廃棄
廃棄物焼却等施設の新設又は増設		○			×	○	○	○	○	○	○	○	×	○		○	○	×

注) ○は選定した活動要素、×は選定しなかった活動要素

網掛は、技術指針別表第二に示される各事業が一般的な内容によって実施された場合に生じる活動要素

環境影響評価項目の選定（1）

:活動要素の区分 環境要素の区分		工事の実施					土地又は工作物の存在及び供用						
		切土又は盛り土	資材又は機械の運搬	仮設工事	基礎工事	施設の設置工事	施設の存在等	ばい煙又は粉じんの発生	排出ガス（自動車等）	排水	騒音若しくは超低周波音又は振動の発生	悪臭の発生	廃棄物の発生
大気質	硫黄酸化物							○					
	窒素酸化物	×	○	×	×	×		○	○				
	浮遊粒子状物質	×	○	×	×	×		○	○				
	粉じん	○	×	○	○	○		×					
	有害物質(塩化水素)							○					
	水銀							○					
	光化学オキシダント							×					
	ダイオキシン類							○					

注) ○は選定した項目、×は選定しなかった項目

網掛は、技術指針別表第二において各活動要素により影響を受ける環境要素であることを示す。

工事の実施の大気質、供用の排出ガスは、他事業の実施による影響をバックグラウンドとして考慮する。

環境影響評価項目の選定（2）

活動要素の区分 環境要素の区分		工事の実施					土地又は工作物の存在及び供用						
		切土又は盛り土	資材又は機械の運搬	仮設工事	基礎工事	施設の設置工事	施設の存在等	生ばい煙又は粉じんの発生	排出ガス（自動車等）	排水	騒音又は振動の発生 音又は振動の発生 超低周波	悪臭の発生	廃棄物の発生
水質	生物化学的酸素要求量						×			×			
	化学的酸素要求量						×			×			
	水素イオン濃度	○		○	○		×			×			
	浮遊物質量	○		○	○		×			×			
	全りん						×			×			
	全窒素						×			×			
	ノルマルヘキサン抽出物質						×			×			
	溶存酸素量						×			×			
	有害物質等（健康項目）						×			×			
	ダイオキシン類						×			×			
	その他の物質						×			×			

注）工事の実施の水質は、他事業の実施による影響をバックグラウンドとして考慮する。

環境影響評価項目の選定 (3)

活動要素の区分 環境要素の区分	工事の実施					土地又は工作物の存在及び供用						
	切土又は盛り土	資材又は機械の運搬	仮設工事	基礎工事	施設の設置工事	施設の存在等	ばい煙又は粉じんの発生	排出ガス(自動車等)	排水	騒音若しくは超低周波音又は振動の発生	悪臭の発生	廃棄物の発生
水底の底質									×			
水文環境	×			×	×	×			×			
騒音及び超低周波音	○*	○*	○*	○*	○*					○*		
振動	○	○	○	○	○					○		
悪臭											○	
地形及び地質等	×		×	×		×						
地盤	×			×								
土壌	○			○			◎					
風害、光害及び日照障害						×						

注) ◎ は技術指針別表第二において影響を受ける環境要素ではないが、本調査で選定した項目
 * 工事の実施における超低周波音は×、供用時の廃棄物運搬車両の走行に伴う超低周波音は×
 工事の実施、供用の騒音、振動は、他事業の実施による影響をバックグラウンドとして考慮する。

環境影響評価項目の選定（4）

活動要素の区分 環境要素の区分	工事の実施					土地又は工作物の存在及び供用						
	切土又は盛り土	資材又は機械の運搬	仮設工事	基礎工事	施設の設置工事	施設の存在等	ばい煙又は粉じんの発生	排出ガス（自動車等）	排水	騒音若しくは超低周波音又は振動の発生	悪臭の発生	廃棄物の発生
植 物	×		×	×	×	×						
動 物	×		×	×	×	×						
陸水生物	×		×	×	×	×			×			
生態系	×		×	×	×	×			×			
海洋生物			×	×	×	×			×			
景 観						○						
人と自然との触れ合いの活動の場		○				○						
廃棄物			○	○	○							○
残 土	○		○	○								
温室効果ガス等		◎					○	○				

3. 調査、予測及び評価の手法

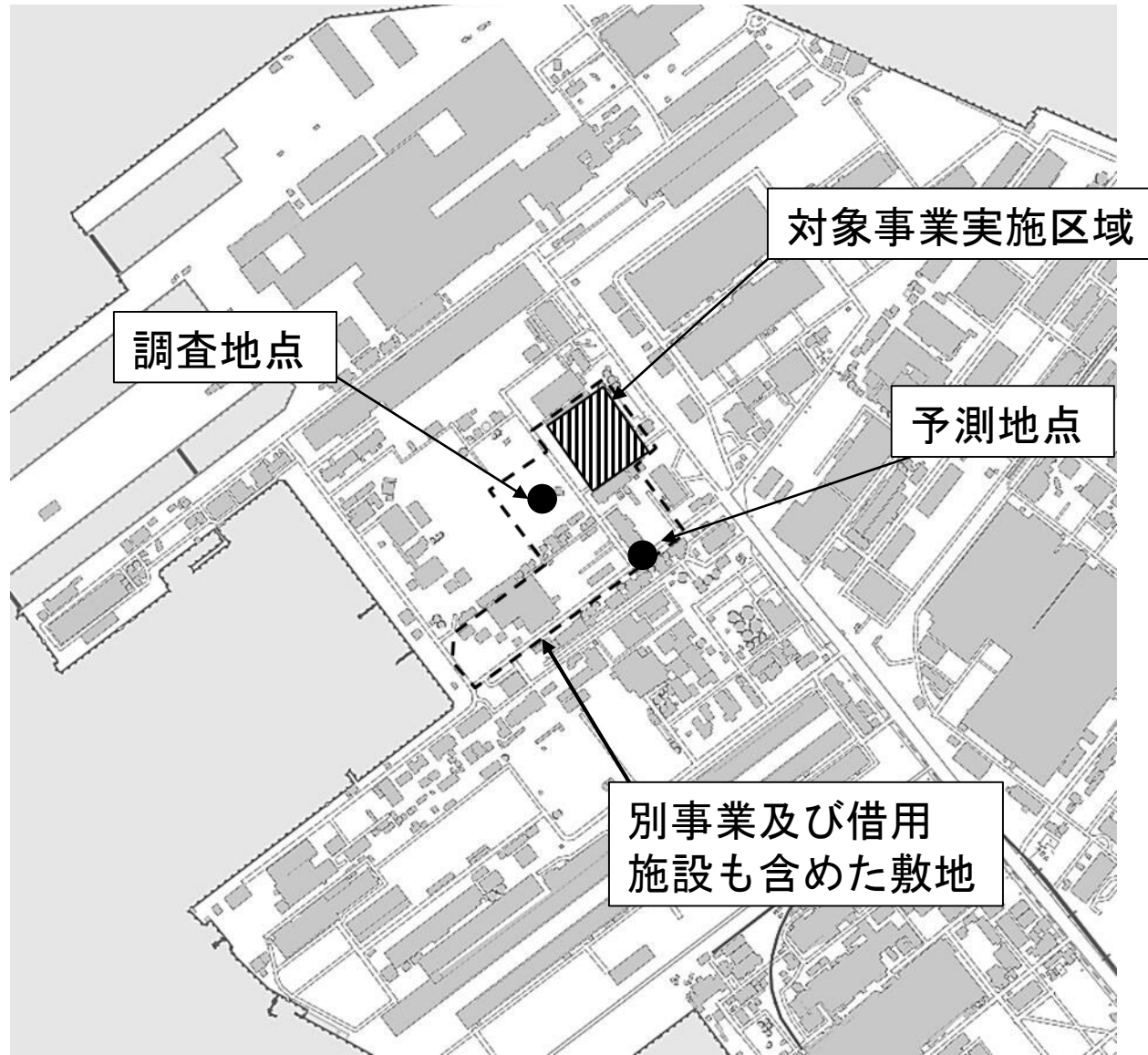
調査等の手法（大気質：工事の実施）

・工事の実施による粉じん等の影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	大気質の状況 （降下ばいじん量）	対象事業実施区域 1 地点	重量法 （ダストジャーによる採取）	1 ヶ月 × 4 季
	気象の状況 （風向・風速）		風向・風速計による自動観測	1 年間連続
予測	降下ばいじん量	別事業の南東側敷地境界	面整備事業環境影響評価技術マニュアルを参考に季節別に予測	別事業も含めた建設機械による影響が最も大くなる時期
評価	降下ばいじん量	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		「降下ばいじんに係る参考値：10 t/km ² /月」（面整備事業環境影響評価技術マニュアル）と、予測結果を対比		

調査等の手法（大気質：工事の実施）

- ・ 粉じん等及び地上気象の調査及び予測地点



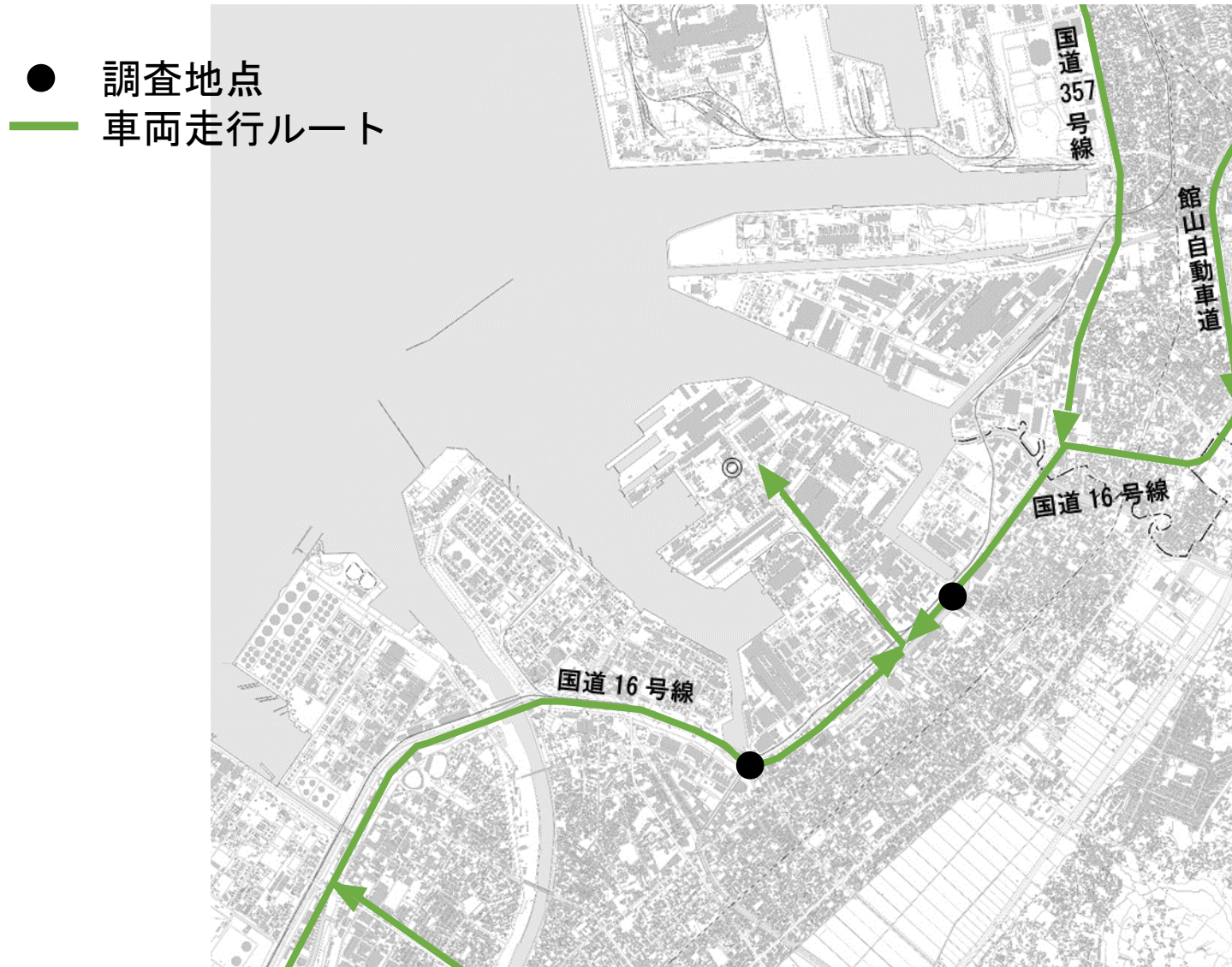
調査等の手法（大気質：工事の実施）

・工事用車両の走行による大気質への影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	大気質の状況 （窒素酸化物、 浮遊粒子状物質）	工事用車両走行 ルート （国道16号線） 沿道2地点	自動計測機 による自動観測	7日間×4季
	気象の状況 （風向・風速）	対象事業実施 区域1地点	風向・風速計 による自動観測	1年間連続
予測	工事用車両の走行に よる大気質 （二酸化窒素、 浮遊粒子状物質）	現地調査地点	大気拡散モデル による年間の 長期平均濃度 の予測	別事業も含めた 工事用車両台数 が最も多くなる 時期
評価	工事用車両の走行に よる大気質 （二酸化窒素、 浮遊粒子状物質）	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		予測結果（二酸化窒素は日平均値の年間98%値、浮 遊粒子状物質は日平均の2%除外値）と環境基準等 との対比		

調査等の手法（大気質：工事の実施）

・ 道路交通大気質の調査地点



調査等の手法（大気質：存在・供用）

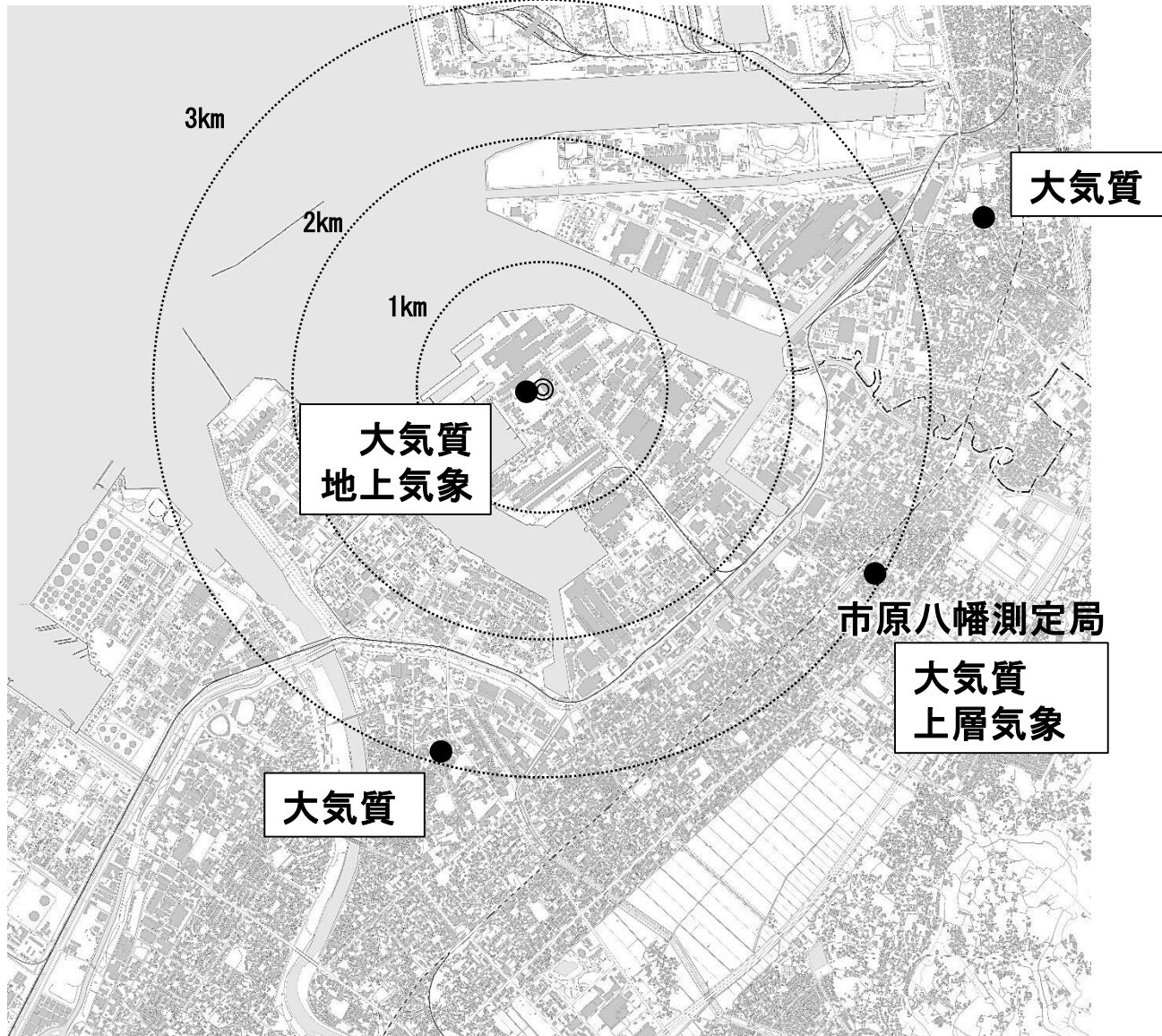
・施設の稼働に伴う大気質への影響（調査）

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調 査	大気質の状況 （二酸化硫黄、窒素 酸化物、浮遊粒子 状物質、塩化水素、 水銀、ダイオキシ ン類）	対象事業実施 区域 1 地点 周辺地域 3 地点	自動計測機によ る自動観測 測定マニュアル 等による方法	7日間×4季
	地上気象の状況 （風向・風速、 気温・湿度、 日射量・放射収支 量）	対象事業実施 区域 1 地点	風向・風速計に よる自動観測	1年間連続
	上層気象 （風向・風速、 気温）	市原八幡測定局 付近（羽田空港 の特別管制区域 外）	GPSゾンデによ る観測	7日間×4季 （3時間毎）

調査等の手法（大気質：存在・供用）

・ 施設の稼働に伴う大気質への影響（調査）

● 調査地点



調査等の手法（大気質：存在・供用）

・施設の稼働に伴う大気質への影響（予測）

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
予測	施設の稼働に伴う大気質			
	・ 長期平均濃度（年平均値等）（二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、水銀、ダイオキシン類）	・ 予測地域の面的な濃度分布 ・ 最大着地濃度地点、現地調査地点、高層住宅所在地	大気拡散モデルによる年間の長期平均濃度の予測	計画施設の稼働が定常状態になった時期（1年間）
	・ 短期高濃度（1時間値）（二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素）	最大着地濃度地点、現地調査地点、高層住宅所在地	気象条件に対応した大気拡散モデルによる短期高濃度の予測	計画施設の稼働が定常状態になった時期で予測条件に設定した気象条件の出現時

調査等の手法（大気質：存在・供用）

・施設の稼働に伴う大気質への影響（評価）

項 目		基本的な手法
評価	施設の稼働に伴う大気質	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す
	・ 長期平均濃度 （二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、水銀、ダイオキシン類）	予測結果（二酸化窒素は日平均値の年間98%値、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質は日平均の2%除外値、水銀、ダイオキシン類は年平均値）と環境基準等との対比
	・ 短期高濃度 （二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素）	予測結果（1時間値）と環境基準等との対比

調査等の手法（大気質：存在・供用）

・廃棄物運搬車両の走行による大気質への影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	大気質の状況 （窒素酸化物、 浮遊粒子状物質）	廃棄物運搬車両 走行ルート （国道16号線） 沿道2地点	自動計測機 による自動観測	7日間×4季
	気象の状況 （風向・風速）	対象事業実施 区域1地点	風向・風速計 による自動観測	1年間連続
予測	廃棄物運搬車両の 走行による大気質 （二酸化窒素、 浮遊粒子状物質）	現地調査地点	大気拡散式によ る年間の長期 平均濃度の予測	別事業も含めた 計画施設の稼働 が定常状態に なる時期
評価	工事用車両の走行に よる大気質 （二酸化窒素、 浮遊粒子状物質）	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		予測結果（二酸化窒素は日平均値の年間98%値、浮 遊粒子状物質は日平均の2%除外値）と環境基準等 との対比		

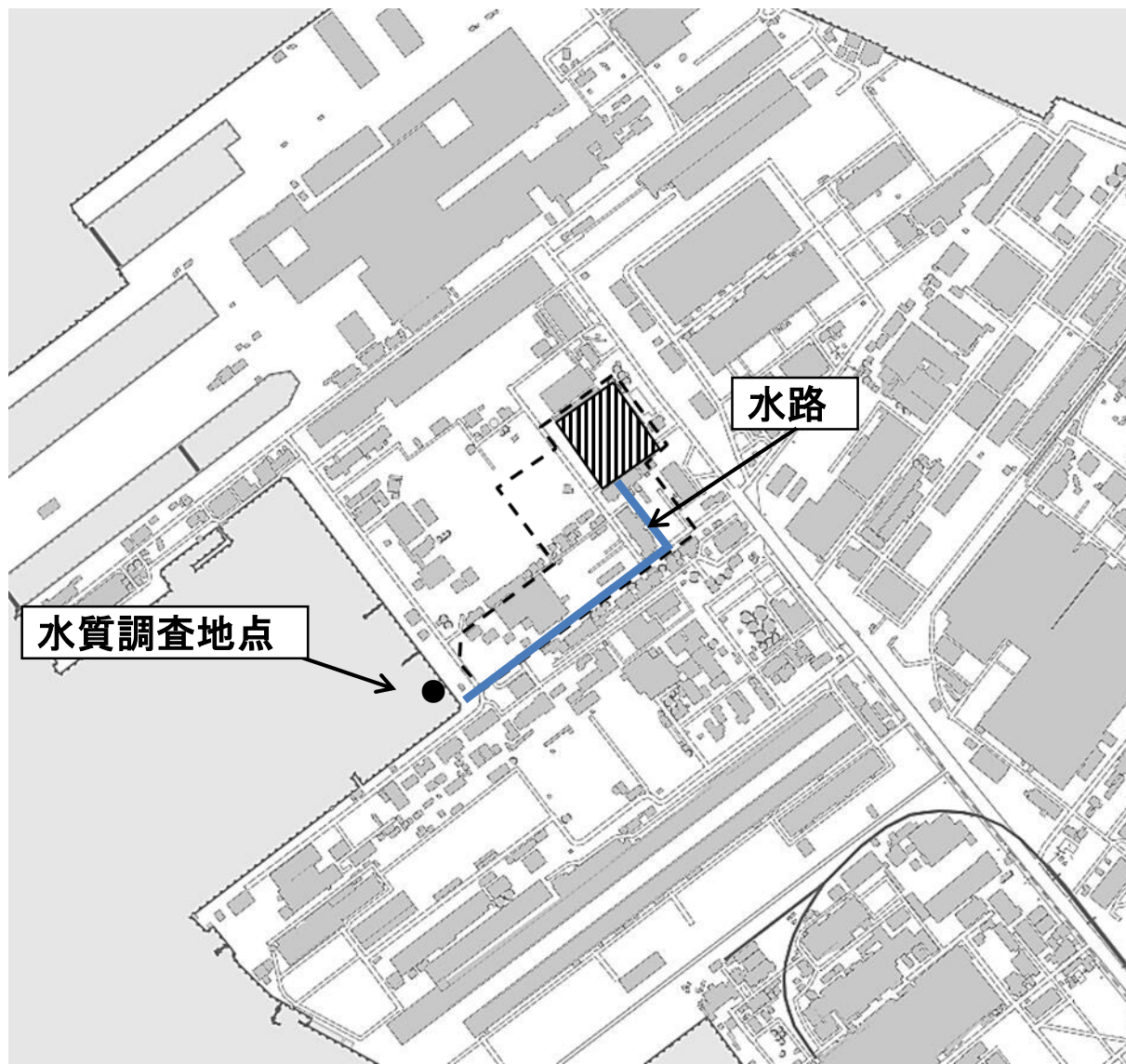
調査等の手法（水質：工事の実施）

・工事の実施による水質への影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	水質等の状況 （水素イオン濃度、 浮遊物質、 一般観測項目）	放流先海域 1 地点採水	水質調査方法に 準拠した採水	降雨時 2 日 （1 日に 2 時間 おきに 5 回採 水）
	土粒子の状況 （粒度組成）	対象事業実施区 域内の表層 2 地点	沈降試験 粒度分析	1 回
予測	水素イオン濃度、 浮遊物質	調査地点	定量的予測	別事業も含めた 工事排水の影響 が最も大きくな る時期
評価	水素イオン濃度、 浮遊物質	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		規制基準、現況水質、環境基準等と、予測結果を 対比		

調査等の手法（水質：工事の実施）

- 水質の調査地点



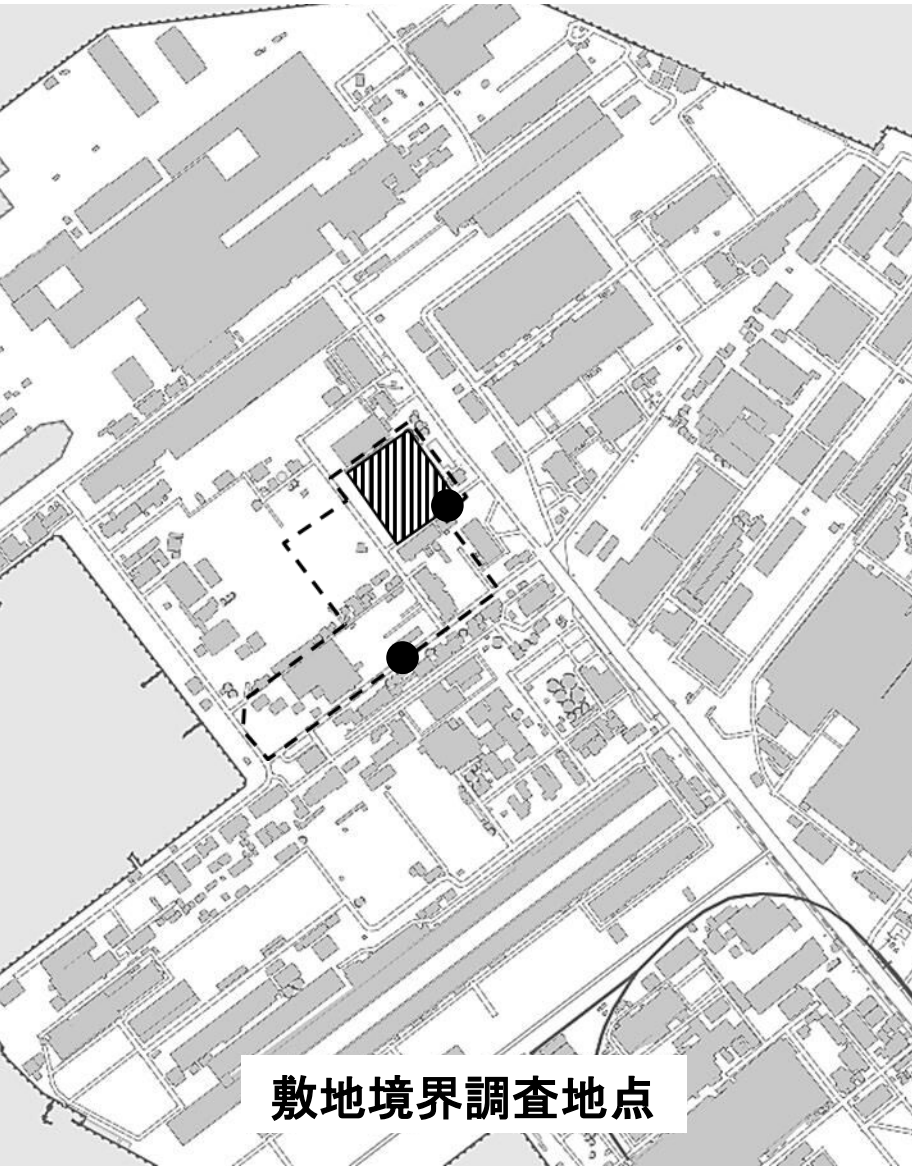
調査等の手法（騒音・超低周波音：工事の実施）

・工事の実施による騒音の影響

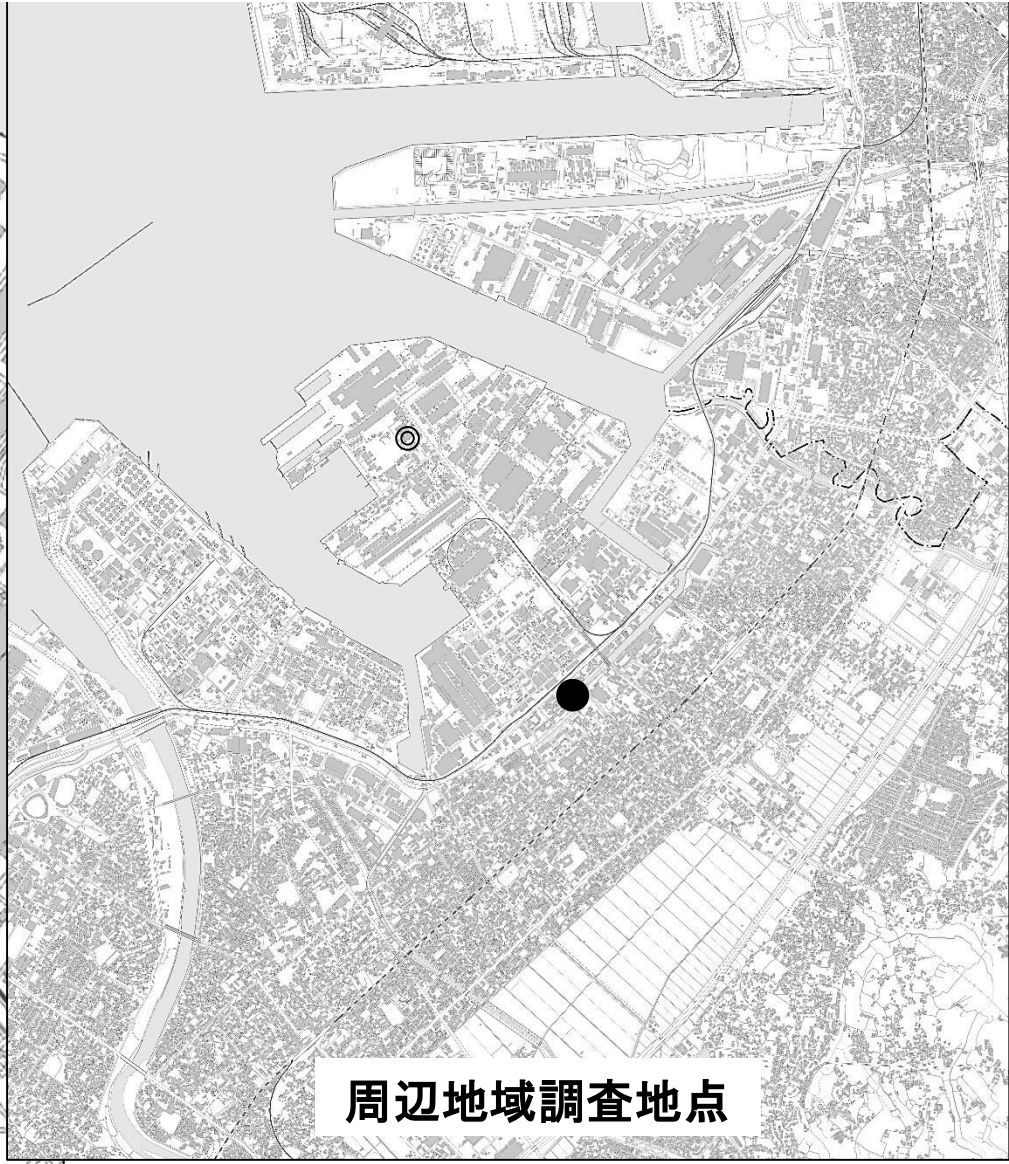
項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	騒音の状況 （環境騒音レベル）	- 対象事業実施区域及び別事業敷地境界 2 地点 - 周辺地域 1 地点	騒音レベル計による測定	平日、休日の 2 日 （24時間連続）
	建設機械の稼働に伴う騒音レベル	- 約100mの範囲 - 敷地境界上の最大地点	伝搬理論式	別事業も含めた建設機械による影響が最も大きくなる時期
評価	建設機械の稼働に伴う騒音レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		規制基準と予測結果との対比		

調査等の手法（騒音・超低周波音：工事の実施）

・騒音の調査地点



敷地境界調査地点



周辺地域調査地点

調査等の手法（騒音・超低周波音：工事の実施）

・工事用車両の走行による騒音の影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	騒音の状況 （道路交通騒音 レベル）	工事用車両走行 ルート （国道16号線） 沿道2地点	騒音レベル計に よる測定	平日、休日の 2日 （24時間連続）
	道路、交通の状況 （道路構造等、 自動車交通量、 走行速度）		現地調査	
予測	工事用車両の走行に 伴う等価騒音レベル	調査地点	（社）日本音響学 会の提案式	別事業も含めた 工事用車両台数 の発生が最も多 くなる時期
評価	工事用車両の走行に 伴う等価騒音レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		環境基準と予測結果との対比		

注）工事用車両の走行に伴う超低周波音の予測・評価は行わない。

調査等の手法（騒音・超低周波音：存在・供用）

・施設の稼働による騒音の影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	騒音の状況 （環境騒音レベル）	- 対象事業実施区域及び別事業敷地境界 2 地点 - 周辺地域 1 地点	騒音レベル計による測定	平日、休日の 2 日 （24時間連続）
予測	計画施設の稼働に伴う騒音レベル	- 約100mの範囲 - 敷地境界上の最大地点 - 周辺地域の調査地点	伝搬理論式	別事業も含めた計画施設の稼働が定常状態となる時期
評価	計画施設の稼働に伴う騒音レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		規制基準と予測結果との対比		

調査等の手法（騒音・超低周波音：存在・供用）

・施設の稼働による超低周波音の影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	超低周波音の状況 （超低周波音、 低周波音）	対象事業実施区 域及び別事業敷 地境界 2地点	低周波音の測定 方法に関するマ ニュアルによる 測定	平日、休日の 2日 （24時間連続）
予測	計画施設の稼働に 伴う超低周波音	敷地境界上の 最大地点	現地調査結果の 参照、類似事例 の引用	計画施設の稼働 が定常状態とな る時期
評価	計画施設の稼働に 伴う超低周波音	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す 科学的知見等を参考		

調査等の手法（騒音・超低周波音：存在・供用）

・廃棄物運搬車両の走行による騒音の影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	騒音の状況 （道路交通騒音 レベル）	廃棄物運搬車両 走行ルート （国道16号線） 沿道2地点	騒音レベル計に よる測定	平日、休日の 2日 （24時間連続）
	道路、交通の状況 （道路構造等、 自動車交通量、 走行速度）		現地調査	
予測	廃棄物運搬車両の 走行に伴う等価騒音 レベル	調査地点	（社）日本音響学 会の提案式	別事業も含めた 計画施設の稼働 が定常状態とな る時期
評価	廃棄物運搬車両の 走行に伴う等価騒音 レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		環境基準と予測結果との対比		

注）廃棄物運搬車両の走行に伴う超低周波音の予測・評価は行わない。

調査等の手法（振動：工事の実施）

・工事の実施による振動の影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	振動の状況 （環境振動レベル）	- 対象事業実施区域及び別事業敷地境界 2 地点 - 周辺地域 1 地点	振動レベル計による測定	平日、休日の 2 日 （24時間連続）
	建設機械の稼働に伴う振動レベル	- 約100mの範囲 - 敷地境界上の最大地点	伝搬理論式	別事業も含めた建設機械による影響が最も大きくなる時期
評価	建設機械の稼働に伴う振動レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す 振動規制法、市原市生活環境保全条例に基づく規制基準等と予測結果との対比		

調査等の手法（振動：工事の実施）

・工事用車両の走行による振動の影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	振動の状況 （道路交通振動レベル）	工事用車両走行ルート （国道16号線） 沿道2地点	振動レベル計による測定	平日、休日の2日 （24時間連続）
	地盤及び土質の状況 （地盤卓越振動数）		現地調査	1回（大型車両の単独走行10台程度）
	道路、交通の状況 （道路構造等、自動車交通量、走行速度）		現地調査	平日、休日の2日 （24時間連続）
予測	工事用車両の走行に伴う振動レベル	調査地点	「道路環境影響評価の技術手法」に示されている式	別事業も含めた工事用車両台数の発生が最も多くなる時期
評価	工事用車両の走行に伴う振動レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		要請限度と予測結果との対比		

調査等の手法（振動：存在・供用）

・施設の稼働による振動の影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	騒音の状況 （環境振動レベル）	・対象事業実施区域及び別事業敷地境界 2 地点 ・周辺地域 1 地点	振動レベル計による測定	平日、休日の 2 日 （24時間連続）
	計画施設の稼働に伴う振動レベル	・約100mの範囲 ・敷地境界上の最大地点 ・周辺地域の調査地点	伝搬理論式	別事業も含めた計画施設の稼働が定常状態となる時期
評価	計画施設の稼働に伴う振動レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		振動規制法、市原市生活環境保全条例に基づく規制基準等と予測結果との対比		

調査等の手法（振動：存在・供用）

・廃棄物運搬車両の走行による振動の影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	振動の状況 （道路交通振動レベル）	廃棄物運搬車両 走行ルート （国道16号線） 沿道2地点	振動レベル計による測定	平日、休日の 2日 （24時間連続）
	地盤及び土質の状況 （地盤卓越振動数）		現地調査	1回（大型車両 の単独走行10台 程度）
	道路、交通の状況 （道路構造等、 自動車交通量、 走行速度）		現地調査	平日、休日の 2日 （24時間連続）
予測	廃棄物運搬車両の 走行に伴う振動レベル	調査地点	「道路環境影響評価の技術手法」に示されている式	別事業も含めた計画施設の稼働が定常状態となる時期
評価	廃棄物運搬車両の 走行に伴う振動 レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		要請限度と予測結果との対比		

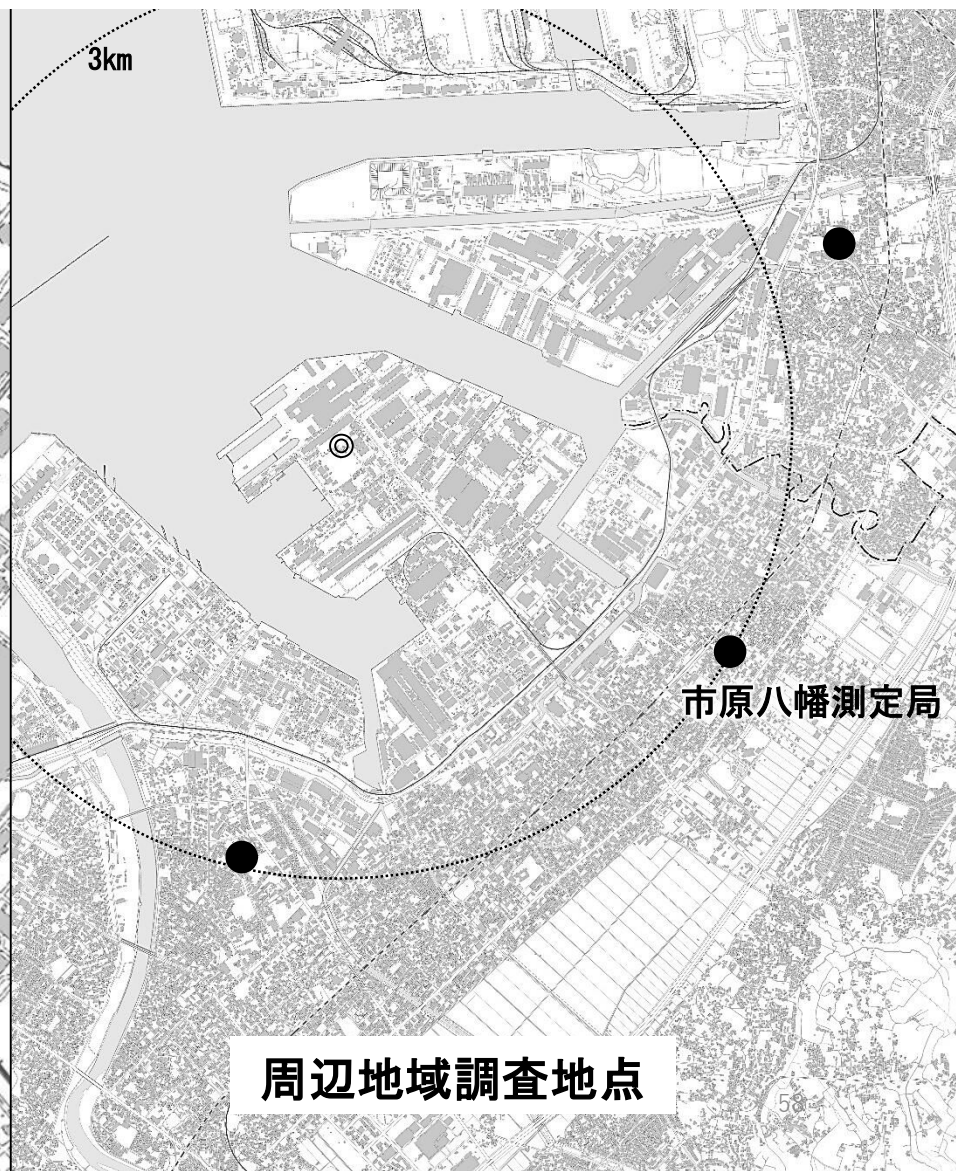
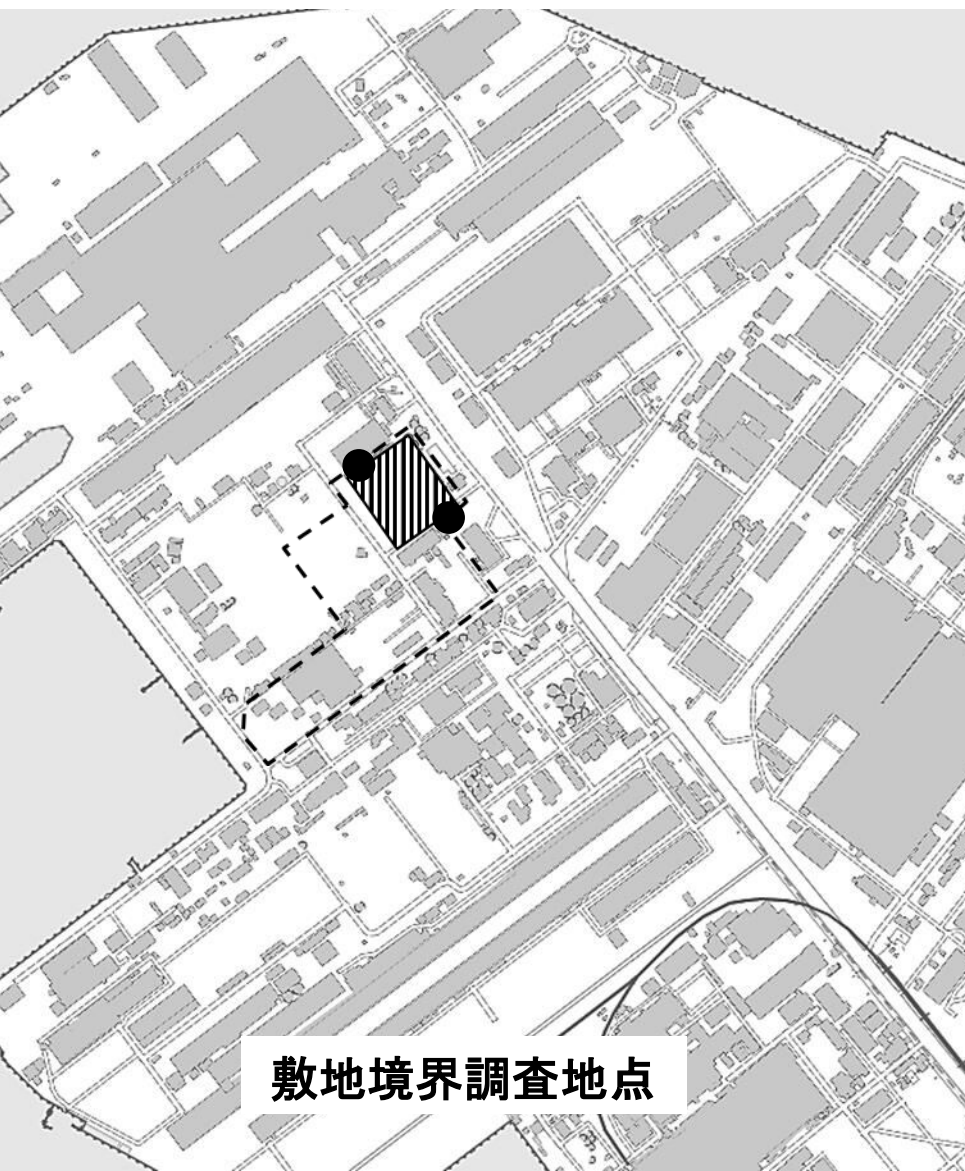
調査等の手法（悪臭：存在・供用）

・施設からの悪臭の影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調 査	悪臭の状況 （特定悪臭物質：22 項目、臭気濃度 （臭気指数））	・ 敷地境界2地点 （風上・風下） ・ 周辺地域3地点 （臭気指数）	現地調査	2回 （夏季・冬季、 各1回）
予 測	計画施設に搬入・貯 留される廃棄物の影 響	調査地点	類似事例の参照 等による定性的 予測	計画施設の稼働が 定常状態となる 時期
	排気塔排出ガスによ る影響	最大着地濃度地点、 調査地点	大気拡散モデルに よる短期高濃度の 予測	
評 価	・ 計画施設に搬入、 貯留される廃棄物 の影響 ・ 排気塔排出ガスに よる影響	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		規制基準と予測結果との対比		

調査等の手法（悪臭：存在・供用）

・ 悪臭の調査地点



調査等の手法（土壌：工事の実施）

・工事による土壌汚染

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調 査	土壌汚染の状況 （土壌汚染に係る環境基準項目：29項目、ダイオキシン類）	対象事業実施 区域 1 地点 （廃棄物ピット 予定箇所）	5 地点混合方式 により採取	1 回
	地下水水質の状況 （地下水水質に係る環境基準項目：28項目、ダイオキシン類）	対象事業実施 区域 2 地点	地下水位観測井 戸の水を採取	2 回 （夏季・冬季、 各1回）
予 測	土地の改変、土壌の 搬出等に伴う土壌汚染 物質の影響	調査地点	類似事例の参照 等による定性的 予測	土地の改変等に伴う土壌汚染物質の影響が生じる時期
評 価	土地の改変、土壌の 搬出等に伴う土壌汚染物質の影響	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		環境基準等と予測結果との対比		

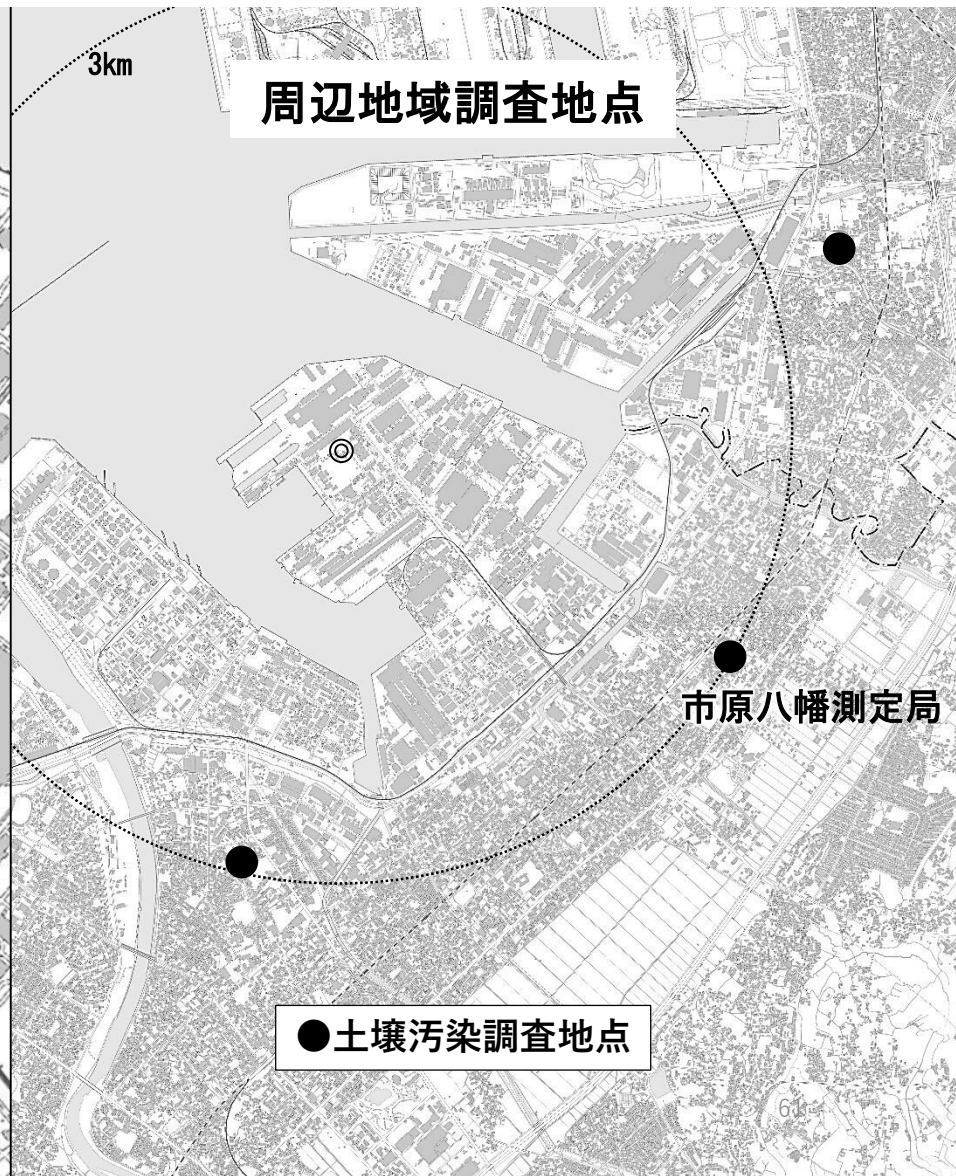
調査等の手法（土壌：存在・供用）

・ばい煙等の発生による土壌汚染

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調 査	土壌汚染の状況 (ダイオキシン類)	対象事業実施 区域 1 地点 周辺地域 3 地点	5 地点混合方式 により採取	1 回
	気象の状況 (風向・風速、 気温・湿度、 日射量・放射収支 量)	対象事業実施 区域 1 地点	風向・風速計に よる自動観測	1 年間連続
予 測	排気塔排出ガスによる 土壌中のダイオキシン 類の濃度	調査地点	大気質の予測結果、 現地調査結果を参 照して推計	計画施設の稼働が 定常状態となる 時期
評 価	排気塔排出ガスによる 土壌中のダイオキシン 類の濃度	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		環境基準等と予測結果との対比		

調査等の手法（土壌：工事の実施、存在・供用）

・土壌の調査地点



調査等の手法（景観：存在・供用）

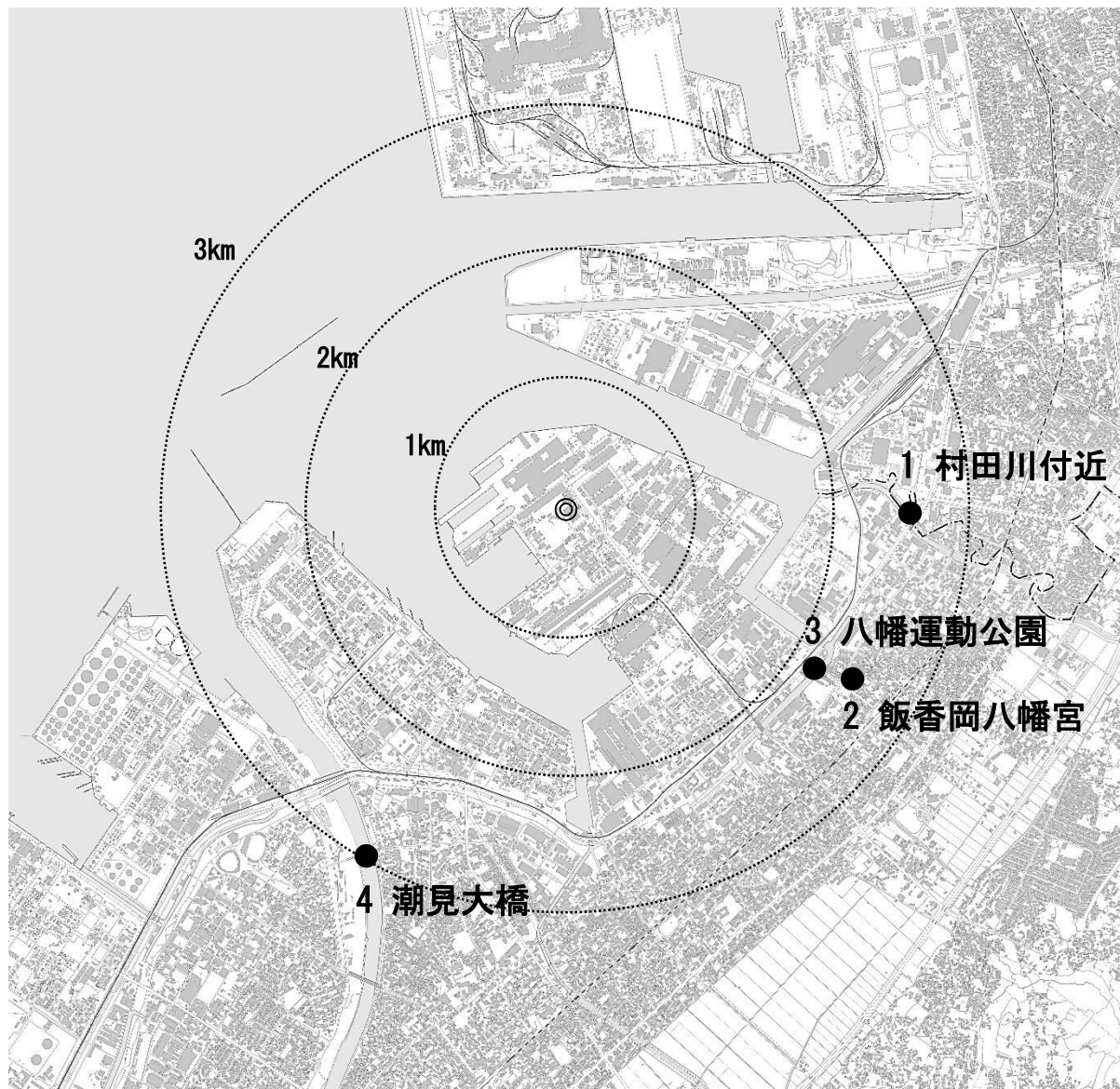
・施設の存在等による景観への影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	主要な眺望景観の状況	4 地点	写真撮影	2回 (着葉期：6月～9月、 落葉期：11月～2月)
予測	主要な眺望点の眺望景観の変化、地域の景観特性の変化	調査地点	フォトモンター ジュ写真の作成	施設の供用開始後、 植栽等による修景 が完了した時点
評価	主要な眺望点の眺望景観の変化、地域の景観特性の変化	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		市原市景観条例、市原市景観計画との整合性		

調査等の手法（景観：存在・供用）

・ 施設の存在等による景観への影響

● 調査地点



調査等の手法（触れ合い活動の場：工事の実施 存在・供用）

・工事用車両等の走行に伴う触れ合い活動の場への影響

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	人と自然との触れ合い活動の場の状況、利用状況等	1 地点 (八幡運動公園)	現地踏査、 写真撮影	2 回 (休日・平日)
予測	工事用車両、廃棄物運搬車両の走行に伴う触れ合い活動の場の利用環境の変化	調査地点	事業内容、環境保全措置等を考慮して予測	工事用車両、廃棄物運搬車両が最も多くなる時点
評価	工事用車両、廃棄物運搬車両の走行に伴う触れ合い活動の場の利用環境の変化	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		

調査等の手法（触れ合い活動の場：工事の実施 存在・供用）

・人と自然との触れ合い活動の場の調査地点



調査等の手法（廃棄物：工事の実施）

・ 工事に伴う廃棄物

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
予測	廃棄物の発生量、排出量、発生量の抑制量、有効利用量、最終処分量	対象事業実施区域	工事計画を基に発生源単位等を参考にして発生量を予測	工事中の全期間
評価	廃棄物の発生量、排出量、発生量の抑制量、有効利用量、最終処分量	廃棄物の発生量が事業者により実行可能な範囲で抑制されているかについて、見解を示す		

調査等の手法（廃棄物：存在・供用）

・施設の稼働による廃棄物

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
予測	廃棄物の発生量、 排出量、発生量の抑 制量、有効利用量、 最終処分量	対象事業実施区 域	計画施設の稼働計 画を基に発生量、 排出量を予測	計画施設の稼働が 定常状態になった 時期の1年間
評価	廃棄物の発生量、 排出量、発生量の抑 制量、有効利用量、 最終処分量	廃棄物の発生量が事業者により実行可能な範囲で 抑制されているかについて、見解を示す		

調査等の手法（残土：工事の実施）

・ 工事による残土

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
予測	工事に伴い発生する発生土、区域外に搬出する残土の量	対象事業実施区域	工事計画を基に発生土の量、残土の量を予測	工事中の全期間
評価	工事に伴い発生する発生土、区域外に搬出する残土の量	残土の搬出量が事業者により実行可能な範囲で抑制されているかについて、見解を示す		

調査等の手法（温室効果ガス等：工事の実施）

・ 資材等の運搬に伴う温室効果ガス等

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
予測	工事用車両の走行により発生する温室効果ガスの発生量 （二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン）	対象事業実施 区域の周辺	「地方公共団体 実行計画（事務 事業編）策定・ 実施マニュアル」を参考にして発生量を予測	工事中の全期間
評価	工事用車両の走行により発生する温室効果ガスの発生量 （二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン）	温室効果ガスの排出量が事業者により実行可能な範囲で抑制されているかについて、見解を示す		

調査等の手法（温室効果ガス等：存在・供用）

・ ばい煙等の発生、自動車等の排出ガスに伴う温室効果ガス等

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
予測	計画施設の稼働により発生する温室効果ガス等の発生量 （二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン）	対象事業実施区域	「地方公共団体実行計画（事務事業編）策定・実施マニュアル」を参考にして発生量を予測	計画施設の稼働が定常状態に達し、温室効果ガスの排出量、削減量が適切に把握できる時期
	廃棄物運搬車両の走行により発生する温室効果ガス等の発生量 （二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン）	対象事業実施区域の周辺		
評価	計画施設の稼働、廃棄物運搬車両の走行により発生する温室効果ガス等の発生量 （二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン）	温室効果ガスの排出量が事業者により実行可能な範囲で抑制されているかについて、見解を示す		

以上で説明を終わります。
ご清聴ありがとうございました。

